

記者会見質疑応答

日 時 令和7年11月26日（水）午前11時から
場 所 第2応接室
出席者 ○市 側：市長、木村副市長、町田副市長、総合政策部長、総務部長、財政部長
○記者側：9社10名参加
発表内容 ・第16回市議会定例会の招集告示について
・PRIDE指標2025の認定について

<案件について>

○苫小牧民報社

議案4号で、部設置条例の一部改正、おそらく機構改革のことかと思うのですが、この狙いはどういったところにあるのですか。

■市長

私が市長に就任して、もう少しで1年が経つところでございますけれども、選挙の時から訴えてまいりました「こども どもんなか政策」を含め、私が公約実現に向けて取り組んでいけるような、組織、機構改革をしたいと思ったのが最初でありますけれども、それとともに、例えばふるさと納税、あるいは地域医療政策、あるいは地域住宅政策、今後の苫小牧の様々なニーズに応えていける組織とはどういうものかという視点からも、検討した上での今回の案となっております。

■総務部長

組織改革の狙いの1つとして、わかりやすい組織ということで、組織名称についても、やはり市民にわかりやすい名称も考えていかなければならないと思っております。今回の組織機構改編、あわせてその辺の見直しも図っていく予定でございます。

○苫小牧民報社

例えば福祉部が健康福祉部になるとか、健康こども部がこども未来部になるということなのですが、これによる担当課の配置で、もう決まっているものがあれば教えていただければと思います。

■総務部長

健康福祉部の各課組織の部分につきましては、現状検討中でございます。

今回の部設置条例の条例改正案という形で上げさせていただいておりますけれども、その部分は健康こども部という名称、それからこども未来部という名称で改正をさせていただく予定

ですけれども、その部以下の組織につきましては現状検討中ということでご理解いただければと思います。

○苦小牧民報社

人員の配置も現在検討中ということでしょうか。

■総務部長

はい。新組織における職員配置の数につきましても、検討を現状進めているところでございます。事務分掌がどうなるのかという検討を今行っている最中でございまして、併せて今そこを進めている最中です。

○朝日新聞社

部設置条例の件で細かいのですが、観光に関する事務が産業経済部から総合政策部に移る意図を、わかりやすい組織編成とおっしゃっていたのですが、素人からすると産業経済部に観光部門がある方がよっぽど私はわかりやすいと思うのですが、外から人を招いて苦小牧にお金を落としていただく、現場と非常に密接な関係が作れるのが産業経済部ではないのかと思うのですが、政策立案の性格が強い総合政策部に移す狙いを教えてください。

■総務部長

今回観光を総合政策部に移す狙いということでございますけれども、観光振興とスポーツ振興という部分が、それぞれ市の魅力向上、それから地域経済活性化に寄与するのではないかなと考えておりまして、大変重要な部分であると認識しております。

例えばですけれども、スポーツ資源と観光を組み合わせるということで、例えばスポーツの参加ですとか、観戦ですとかそういったことを目的として訪れるお客様、例えばアウトドアスポーツが最近盛んでございますけれども、そういった部分での観光地域作りですとか、そういった今まさに話題になりますけれども、プロスポーツチームと連携した観光誘客ですとか、そういった観光政策として今後強化をしていくという狙いで、今回設置を検討しております。

○朝日新聞社

その場合、例えば、他市の例にあるのですが、何々部とか何々課ではなくてグループという言い方で、部とか課の境界をとっぱらった複数の課にまたがるような形で職員とか課を配置しているケースがあるのですが、産業経済部から観光部門は縁が切れてしまうという理解でよいでしょうか。

■総務部長

所属については確かに部を移管する形にはなりますけれども、こういった形で連携するのかなというのは今後例えば産業経済部でいけば、新たな企業が進出していただいたとか、例えばあ

とは農業振興に絡んで、観光と何か関係が出てくる可能性とかというのものもあるかとは思いますが、現段階でそこが完全に切れてしまうとは考えておりません。

○朝日新聞社

市の財産を譲渡すると、NTT に渡す情報関連施設なのですが、どんな施設で元々どういう目的で市が作られたのか、それがなぜ今回 NTT 東日本に譲渡しなければいけないのか。

それからもう 1 つは、土地の市有地の譲渡というのがあったのですが、私の記憶が正しければ、ここ 1 年半、2 年くらいの間にずいぶん市有地が増えて、まとまった面積の土地がかなりの金額で民間に移譲されているのですが、市として計画的に市有地を減らしていこうという何か方針があるのかどうか。特に、大東開発さんと市というのは、何か変な勘繰りをするわけじゃないですけど、関係があるので、勘繰りたくなるのですけれども、その辺詳しくご説明いただきたい。

■市長

基本的に市の税収を増やす努力というのはずっと市はしてきておりますし、市有地を売却するというのは、これまでも多額なものも含めてたくさんやってきておりますので、今回の件もその一つだと思っていただいてもいいと思いますし、そういったニーズに応じてインフラをしっかりとやっていけるかといういろいろな調査検討を行った上で、市有地の売却ということにこれまでも判断して踏み切っていますので、基本的にはどんどん売って開発が進んで人口が増えたり、投資を促せるようなこと、それが最終的に税収にもつながってくるようなことであれば基本的には市としても取り組んでいくという。それが市有地の売却ということにつながるケースもあろうかと思っておりますので、取り立てて何かおかしいことではないと思います。

■総合政策部長

植苗・美沢地区の通信機器のお話ですが、民間企業が植苗ですとか家が点在している地域に光ケーブルを整備するというのは、なかなか事業として成り立たないということがありまして、国からお金をもらって、整備して光通信ができる環境に整えたということがあります。そこを民間に譲渡していこうという、国の方の流れがありますので、その仕組みにのっとって今回私たちも NTT のほうにこの機器を譲渡していくということになっています。国からお金をもらって私どもが整備した利用としては、個人の家にしか使えなかったのですが、このように NTT にお渡しすることによって通常の NTT のサービスですから、法人などにも使えるようになるということはメリットになるかと思っております。

○朝日新聞社

大東さんに売り渡される宅地の件なのですが、どのように使われるのかというのはあるのでしょうか。例えば譲渡した方がいいが、市民の合意が得られていない IR 用地になるとか、そういうことはあるのですか。

■財政部長

売却としては、事業用地および販売用地ということで売却をしておりますので、その後の大東さんの考え方に基づいて、宅地の利用がされていくだろうと思います。

市としては、特段用途をつけない形で、事業用地および販売用地という形で運用するということで、大東さんから聞いているところです。

○朝日新聞社

入札という理解でいいですか。

■財政部長

そうです。当然市の財産ですので、入札予定価格を設定して、入札をして、売却することになります。

○朝日新聞社

何者でしょうか。

■財政部長

今回は複数者です。一者ではないです。

○朝日新聞社

たまたま連続して市有地の譲渡というのと、大東さんの落札が続いているという。

■財政部長

そうですね。

○朝日新聞社

そこは会社の規模なり資金力なりの影響でもって、非常に他の業者さんよりは有利に働いているというそういう理解でよろしいですか。

■財政部長

そうですね。予定価格、金額で差が出るということなのでしょうけども、大東さんがそういった数字を入札時に提案してくれたということになります。あくまでも入札ですので、先ほど記者さんがおっしゃられたように、入札の結果、大東さんが購入したということになります。

○朝日新聞社

先ほどの市長の方針について伺いたいのですが、例えば傍で見ていると、市有地を適正に売却していくということ、予算の確保という部分で大切なことだと思うのですが、タコが自分

の足を食べていつてしまっているように見えるのですけれども、あとどれくらい市有地の売却とか譲渡の余裕があるものなののでしょうか。今後の方針といたしますか。

■市長

詳しいことはまた財政部長から、今後どれぐらいまだ用地があるかというのは、答えられる範囲内で答えてもらえたらと思いますが、いたずらに市街地を拡大していつて、売りに出すというのはそれに伴ってのインフラ整備も必要になってきますから、先ほど申し上げたとおり人口動態ですとか、あるいは進出企業の状況、東側でいえばラピダスさんの動きも苫小牧東部の人口に影響があるかもしれませんので、仮にそういったところで今回は大東さんの宅地ということですが、そういったものを用意してあげることで、企業進出を助け、そしてそのメリットを苫小牧市も得ることができるようなことも考えられるのであれば、市有地の売却というのは逆にやっていくべきなのかなと思っております。闇雲に市有地売却を進めるということではないと思っております。

■財政部長

分譲可能の面積がどの程度あるのかということは、今お答えができないのですが、一定程度の面積をまだ持っていますので、今後売却をして、財源の確保ということにつなげていくと、財政部としてはそういう考えであります。

市有地を持っていることで年間の維持管理費ですとか、コストがかかりますので、なるべくその遊休資産を有効活用していくという考えが、非常に大事なのかなと思っておりますので、売却という手法もあるでしょうし、貸付で賃貸料をいただくといういろいろな考え方があると思いますので、財政部としてはそういった遊休資産を有効活用する中で、財源の確保につなげる、販売するのがやはり大きな財源に、一般財源になりますので大変助かっているなということになります。

○紙の街の小さな新聞社ひらく

今回の部設置条例の改正の中で、若者という項目が事務分掌の中に加わるということなのですが、この小・中学校の義務教育を終えた後の若者の支援というのがなかなか途切れがちになり課題が多いのかなと感じているのですが、ここをあえて若者という言葉を加えた市長の思いというか、どういった課題意識があり、今後どういったことに取り組んでいきたいかということをお伺いしたいです。

■総務部長

これまでも子ども若者育成支援ということで、年齢でいきますと 39 歳までを支援の対象としてやってきておりますけども、それをよりわかりやすく組織名称を変えることで、こども未来部において、そこの事業・施策について取り組んでいくということでございます。質問の趣旨のお答えとしては合っていますでしょうか。

○紙の街の小さな新聞社ひらく

こども どまんなかを掲げている市長の考えをお伺いできると嬉しいのですけれども。

■市長

先ほど申し上げたとおり、やはりこども どまんなか政策は私の公約の中の大きな一つでありますので、わかりやすくしていくために、今回こども未来部ということで、組織機構改革を考えています。

○紙の街の小さな新聞社ひらく

今回の陳情の中で個人の方から化学物質過敏症、電磁波障害という症状などを持つこどもたちの教育を保障してほしいという趣旨の陳情が上がっています。陳情自体は市議会の委員会では取り扱い審議されるかと思うのですけれども、市長自身はこういったものを持つ子どもたちの教育環境に関しては、どのような取り扱いをしていきたいと考えていらっしゃるかを聞いておきたいのですが。

■市長

個別具体的話になってしまうので、ここでは詳細についてのコメントは控えたいと思うのですけれども、いかなる状況にあっても子どもたちが抱えているさまざまな身体的、あるいは家庭的な環境で学びの場が確保されないというものについては、教育委員会と連携しながら何らかの形で解決策がないかという模索はしていきたいと思います。

ただそれに対する、例えば箱物が必要であるとか、電磁波もいたるところに飛んでいるわけですし、それを排除するようなことが果たして現実的に今できるのかということから考えても、どういうことができるのかわかりませんが、いろいろと検討はしていきたいと思っています。どこまでご要望に沿うことができるかわかりませんが、議会の議論がどのようになっていくのかということも、見守りたいと思います。

○北海道新聞社

先ほど少しご説明があったのですが、福祉部を健康福祉部へ、健康こども部をこども未来部にするというので、公約である「こども どまんなか」を実現するため、といったこととおっしゃいましたけれども、具体的にはどういうことが必要で、今回こういう名称の変更にしたのでしょうか。人によっては、悪い言い方ですと名前を変えただけではないかと思われる方もいるかもしれないので、何が具体的に必要で、このように変えたというご説明をいただければありがたいです。

■市長

私が市長に就任させていただいて、こども どまんなか政策というものを進める中で、さまざまな市民の方からご意見やご要望をいただきましたけれども、特に障がいをお持ちのご

家庭の保護者の方からは、「子どもというのは健常者だけなのですか？」ということをよく聞かれます。

私は健常者である子どもも、障がいを持っている子どもも、みんな子どもですということで、どまんなかの中にいるということを説明してきておりまして、そういった障がいを持つお子さんをお持ちの保護者の方への配慮も含めて、今回内部で検討して、案として作っております。

○室蘭民報社

先ほどの部設置条例の関係で、観光を総合政策部に移管するという関係で、先日宿泊税の懇談会の方で、再来年から宿泊税を導入したいということであったと思うのですが、この総合政策部に移管するというのは税収を確保して、そこにさらに観光とかそういったイベントに関する政策を打っていきたいというところもあって移管をするのかという、その辺の意図について教えていただければと思います。

■市長

はい。そういうものも含んでの今回の案となっております。

先ほど担当部長からもありましたけれども、スポーツと観光というのは切っても離せないようなつながりを持っておりますので、特に来年度苫小牧市はスポーツ都市宣言 60 周年の節目を迎えますし、プロスポーツの誘致も、合宿の誘致も決まっておりますから、なお一層こういったスポーツと観光、あるいは経済というものが関わってきますから、総合政策部に観光を移管したとしても、経済との連携というのはおのずと出てくると思いますから、今後は宿泊税の使途も含めて、いろいろ協議もやっていくことになろうと思いますから、観光を総合政策部に移管したとしても、経済部との連携というはあるという中で進んでいくと思います。

○朝日新聞社

PRIDE の件で教えていただきたいのですが、ゴールド認定 2 年連続というのは、苫小牧市が初めてということでしょうか。

昨年道内の自治体で初めて認定されて、その後道内の他の自治体が追随してこないというのは、これは例えば申請するけど認められないのか、あるいはそもそも苫小牧市と違って他の自治体はこういう取り組みへの熱意が薄いのか。どうなのでしょう。

去年のこの時期だと思うのですが、PRIDE を初めて受賞なさったときに、今苦戦している新規職員の採用にもかなりプラスになるのではという期待を、当時の部長さんおっしゃっていたと思うのですが、実際去年と今年、大きく変わらないかもしれないのですが、その辺新規職員の採用活動への PRIDE の波及効果はどのように見ていらっしゃるか、その辺を教えてください。

■総合政策部長

2 年連続というのは他市の事例でもございますので、この資料で示しているとおり国立市は

令和4年、5年と連続して受賞しております。ですので、初めて苫小牧市が2年連続だということではありません。

なかなか追従してこないというのはどうしてかというところになると、私どもも何ともお答えしがたい部分があるかなとは思っております。苫小牧市としては男女平等の条例を持つ市ですから、そういったことを考えますと、こういうことにも一生懸命取り組んでいくという強い意志を持って、その証明としてこのPRIDE指標というのをやはり取得すべきではないかというような議論があって、昨年から申請しているということでございまして、他の自治体がこのPRIDE指標というものをどこまで考えているのかというところは、聞いてみないと分からないものと思っております。

新規採用職員への影響については、現実のところまだどこまで効果があるかというのは計り知れません。今後年が進むにつれて、そういった性別に関わりなく尊重される職場ということで働きたいという若い人が増えてきた際には、選ばれる要因になってくるのではないかと、ということを期待しているという段階でございます。

○朝日新聞社

PRIDE評価の3つの項目の中に、人事制度やプログラムというのがあって、これは仮に性的マイノリティを自認する方でも、能力さえあれば適性の評価を受けて昇給昇進ができるという、市の人事制度の風通しの良さを評価されるものだと思うのですが、今実際苫小牧市の中では性的マイノリティを自認する方がどの程度いらっしゃるって、そのうち役職の一番高い方だとどのレベルにいらっしゃるのかというのは、明らかにしていただけないでしょうか。

■総合政策部長

性的マイノリティかどうかということを調べるですとか、そのようなお話にはならないかと思っております。ですので、今職員にどれだけの割合の人がいて、そのうち役職が一番高い方がどこかということは、これは今後もなかなか調べることはできないと思っております。

先ほどの評価指標の人事制度につきましては、職員の能力を評価するという部分については、これはこういうことに取り組まないとしても、やはり男性、女性など性別に関係なく評価していかなくてはならないので、今回のPRIDE指標の人事制度の評価というところは、そういった部分ではないです。

例えば休暇制度ですとか、性的マイノリティの方にもパートナーシップで結婚したときに結婚休暇が与えられるのかですとか、パートナーの方の親族がお亡くなりになったときに、忌引き休暇が認められるのかですとか、そういった制度があるのかということでしたり、あとは結婚をしたときに、福利厚生会でお祝い金を出していますけれど、それにこのパートナーシップの方が該当するのかなど、そういった意味での人事制度ということになっておりまして、能力を評価するという観点ではないということをご理解いただきたいと思います。

○朝日新聞社

市内の民間企業さんも1社今回認められたということなのですが、特に認定されやすいように一緒にプログラムを組むとか、市のほうからアドバイスとか、そういうような働きかけをなさって今回の受賞になったという理解でいいでしょうか。

■総合政策部長

例えば市長とジェンダーミーティングや、男女平等の取り組みの中で、市が取り組んでいることをいろいろと発信することで、まず市役所が取り組むことによって、市内の企業に波及させたいという思いを持っています。

そういった意味で、私たち市が先進的に取り組んでいきたいという思いを持って、いきなりこういうことをやってくださいと言っても説得力がないと思いますので、まずは市役所がどこまでできるのか。その上でこういう効果がありますということを波及させていきたいという思いで、取り組んでいる部分があります。

そういった中で、オーティスさんからも実際担当の方にPRIDE指標を市が取ったことに対して、どのようにしたら申請できるのか、どのようにしたら取得できるのかということは相談があったということでもあります。

<その他 案件以外について>

○苫小牧民報社

市長が就任してまもなく1年、ほとんど休むこともなく動き回っていたこの1年を振り返っていただきたいのと、今回部設置条例の一部改正をするということなので、今後の意気込みを伺いたいのですが。

■市長

おかげさまで12月8日をもって、市長就任から1年がようやく経つというところでございます。その間、副市長以下、市役所内部では、職員の皆さんのいろいろなご協力をいただきながら、公約実現に向けて奔走してきた1年だったと思っています。

当然1年でいろいろな公約全てを実現できるわけではありませんし、これから種を蒔いて数年後に実現していくものもあろうかと思えますけれども、とにかくこの市役所の組織のすごさといいますか、議員のときに外から見ていたものとはかなり見えるものが違ってきたかなというところがあって、それぞれがプロ意識というか、そういう中で自らの能力を一生懸命発揮してくれているなというのは感じておりますので、さらに市役所の外の民間の皆さんとも連携をしながら、この苫小牧市の発展のために、また公約実現のために、一生懸命2年目もやっていきたいと思っております。

機構改革の話も、公約実現に向けて良い効果を出せるように、議会議論もこれからあろうかと思えますけれども、さまざまな意見を聞きながらやっていきたいなと思っております。

○STV

ファイターズ2軍の件でお伺いいたします。今年もあと1か月ということで、7月に会見があつてから半年近く経ち、年内あと1か月というところで、現在の球団とのやり取りの状況ですとか、候補地についてなどいろいろな話があると思うのですが、進捗状況をお伺いできますか。

■市長

7月の定例記者会見で私がチャレンジを表明して以降、白老町やむかわ町といった近隣自治体から応援をする表敬訪問を受けていたり、あるいは期成会が結成されまして、これは胆振それから今、日高にも少し流れが拡大してきている、そういうような広がりを感じているところです。

ファイターズとはいろいろな交渉はしてきております。私も直接お会いしたこともありますが、いくつかの候補地の提案をさせていただいたりしております。一部報道で苫小牧が優勢だというような報道もありましたけれども、まだまだこれからだと私は考えておりまして、市民の皆さん、あるいは広域で皆さんが望んでいるファイターズ2軍施設の誘致を実現できるように精力的に頑張っていきたいと思っております。

■町田副市長

候補地につきましては複数カ所ということで、これまでもお話をさせていただいていますけれども、ここは交渉事ですので、確定した場所をこの場でお示しすることはできませんけれども、今月私も期成会の会長、事務局と一緒にソフトバンクホークス、阪神タイガース、読売ジャイアンツの2軍施設の視察に行っていました。3球場を見て、交通アクセスの面ですとか、サブ球場の規模ですとか、そこを肌で感じられたというのは大変貴重な時間だったと思います。

その中でたまたま読売ジャイアンツがキャンプをやっているところに訪れているファン層を見ると半数以上が若い方が来ていらっしゃるというイメージを持ちました。これは今後市のまちづくりにとって、2軍を誘致することによって、そういう若い方々が苫小牧に入ってきてくれて関係人口交流人口につながっていく可能性が非常にあると感じましたので、今後も精力的に日本ハムさんとは交渉してまいりたいと思いますし、実現に向けて市全体で取り組みを進めてまいりたいと考えてございます。

○STV

候補地は現時点では交渉中ですのでお答えできない部分があるかと思うのですが、以前の記者会見では、駅前を含めていろいろな候補地があるという話がありましたけれども、この候補地というのは市有地になるのか、それともいわゆる民間の土地を買って候補地とするのかといった形になるのでしょうか。

■市長

我々が考えていますのは、市有地も含め、あるいは他の民有地も含め、全ての苫小牧市内の場所をいくつかの候補地として考えております。

それをファイターズさんの方でどう捉えるかというのはいろいろありますので、その辺はここでは具体的には申し上げられないのですが、そのような状況です。

○STV

先ほどお話がありましたけども、苫小牧市外の市町村とも連携して、かつ期成会が立ち上がって、そういった意味では苫小牧市以外の市町村が協力してくれているというのは、他の市にはないところなど、金澤市長が今回の2軍誘致に関して、現時点での手応えはいかがですか。

■市長

チャレンジを表明したときから、決して簡単なテーマではないと思っておりますので、諸課題についてどうクリアしていけるのか、位置関係だけでいえばエスコンフィールドに近いまちが有利だろうと誰もが思うかもしれませんが、そういった位置だけではなく、それ以外のさまざまなストーリー性、あるいはメリットを関係する方々に感じてもらえるような提案ができればいいと思っております。

○STV

2軍誘致で、球団との情報交換の中でいろいろな課題がわかってきたと思うのですが、苫小牧市内に誘致するにあたっての課題面、これが財政なのか場所なのかという課題面と、逆に苫小牧市内に呼び込むに関してのメリットではないですけども、市内に球団を呼ぶ良い点を改めてお伺いできますか。

■市長

最大のポイントは、まとまった土地を適切な場所に確保できるかということと、苫小牧市としてどれぐらい投資できるお金が見込めるのかと、それが財政健全化というところとしっかりマッチして、平準化をどう図っていけるか、そういったところがポイントかと思っております。

副市長からもありましたけれども、おそらく誘致が実現すれば若い方々が、苫小牧に来たこともないような方が、推しの2軍選手、これから自分が育てていくというような思いで応援している選手がたくさんいて、それを見に来る方も来られるかと思います。

そうするとまちの賑わいも当然変わってきますし、場合によっては公共交通機関の状況も改善される可能性もあると私は思っております。そういったさまざまな波及効果が望めるものと思っております。

○STV

先日ファイターズ2軍に関して、誘致が決まった際の経済効果というデータが出たかと思う

のですけれども、あれを見て本当に苫小牧市に来たときに、経済効果に期待という部分、数字が具体的に出了たということで、その辺の期待感はいかがですか。

■市長

出た数字だけ見ると、大変魅力的な数字だと思います。経済波及効果ということですので、実際の例えば税収であるとか、あるいは市民とか広域で考えたときの方々に、どう裨益として実感していただけるかというのはまた別問題だと思いますので、いろいろこれからそういったところも見ていきたいと思っております。

○北海道建設新聞社

市長がご就任されてから市外各地、あるいは首都圏だったり、トップセールスに奔走されていたかと思うのですけれども、改めてその手応えだったりとか、苫小牧市という場所がどういった目で見られているのか感じたことなどをお聞かせいただければと思います。

■市長

何回か申し上げておりますが、やはり先人たちの取り組みのおかげで北海道随一の港湾があって、物流拠点として非常にポテンシャルが高い。そして苫東という広大な工業用地が、あるいは北電さんがあって電力がしっかり確保できる、水もある程度用意できている。こういった企業進出に非常に好条件であるというのが、苫小牧の最大の魅力ではないかと、企業を訪問して非常に思うことであります。

そのポテンシャルを最大限生かして実を結んでいけるように、これからも企業アプローチ、既存企業へのフォローアップもそうですけれども、取り組んでいきたいと思っております。

○北海道新聞社

市長が就任してまもなく1年を迎えるということで、この1年を振り返って自己評価とその根拠、理由をまず教えてください。

■市長

先ほど他の記者さんも聞かれておりましたが、ほとんど休む間もなく市長職に従事させていただいておりますけれども、私個人としてはできる限りの動きはできてきたかなと思っております。

その中で自己評価ということでは、いくつか公約に掲げたもので既に実現できているものもありますので、もっともっとこれから頑張っていきたいと思っております。

○北海道新聞社

既に実現できているものとは。

■市長

例えば小学校入学祝い金、これは今年度から事業化させていただいているのと、これは教育委員会と連携してですが、校内教育支援センターの設置は多分3カ年くらいかけて全校設置に既に取り組んでおります。それ以外にも、先ほど申し上げた既存企業へのフォローアップですとか、公約に掲げているものをいくつか実現はできておりますので、もっともっと取り組んでいきたいと思っています。

○北海道新聞社

この1年間の自己評価という点で、例えば100点満点中だったら何点ぐらいと自分では評価しますか。

■市長

私は常にベストを尽くしているつもりですけども、どうでしょう。おまかせいたします。

○北海道新聞社

市長が現状でこの1年間で最も実績だと考えていることを教えてください。

■市長

例えばこども どもんなか政策でいきますと、先日小島よしおさんが来ていただいて、親子トークショーをやりまして、大変盛り上がりました。

こども どもんなかで、小学校入学祝い金ですとか、あるいは国の交付金が出たときの給食費の無償化ですとか、そういった子どもに関わることを取り組んできて、いろいろな市内のイベントで親子連れの保護者の方々に会うとお礼を言われたり、もっともっとこれから子どものことをやってほしいという期待の声をいただいたりしていますので、こども どもんなかに関わって、寄附も企業さん、団体さんからいただくようにもなってきておりますので、市民の反応を見ていると、もっともっと期待に応えていかなくてはと思っています。

そして、やはりファイターズ2軍施設への誘致のチャレンジは、本当に多くの市民の皆さんからそういう意味では評価をされている。やはり実現したいと。だからこそ思うわけでございますけれども、そういったさまざまな可能性にチャレンジをしていくということが、この1年間やれたことかと思っています。

○北海道新聞社

金澤市長が1年前、岩倉前市長の路線継承を掲げ当選をしたわけなのですが、岩倉前市長が財政健全化をはじめとするような基礎を築いてこられましたけれども、いわゆる岩倉路線というのを引き継いだ点と、逆に市長独自の金澤カラーといいますか、そういったものを発揮できた点をそれぞれ教えてください。

■市長

私にとっては岩倉市政というのは、私自身が与党議員として支えてきましたので、それを引き継ぐというのは当然の路線でありましたし、詳細まで言えない部分もありますけれども、岩倉市政でやってきたことを今見直さなければいけないものも、この人口減少、あるいは物価高騰の中で、あるいは新たに出てきたチャレンジテーマ等々の中で、これまでと違う道を選ばなければいけないところもこれからあろうかと思います。そういった検討も内部では、今は言えませんけれども進めているところもありますし、それが岩倉市政と違うところに今後なっていくのかと思います。岩倉市長が取り組んでこなかったもので、公約に掲げて既に事業化しているものも、先ほど申し上げたようなもの含めていくつかありますので、そういったものが金澤カラーといえカラーなのかなと思います。